

サービス付き高齢者施設向け 見守りセンサモジュール

要 旨

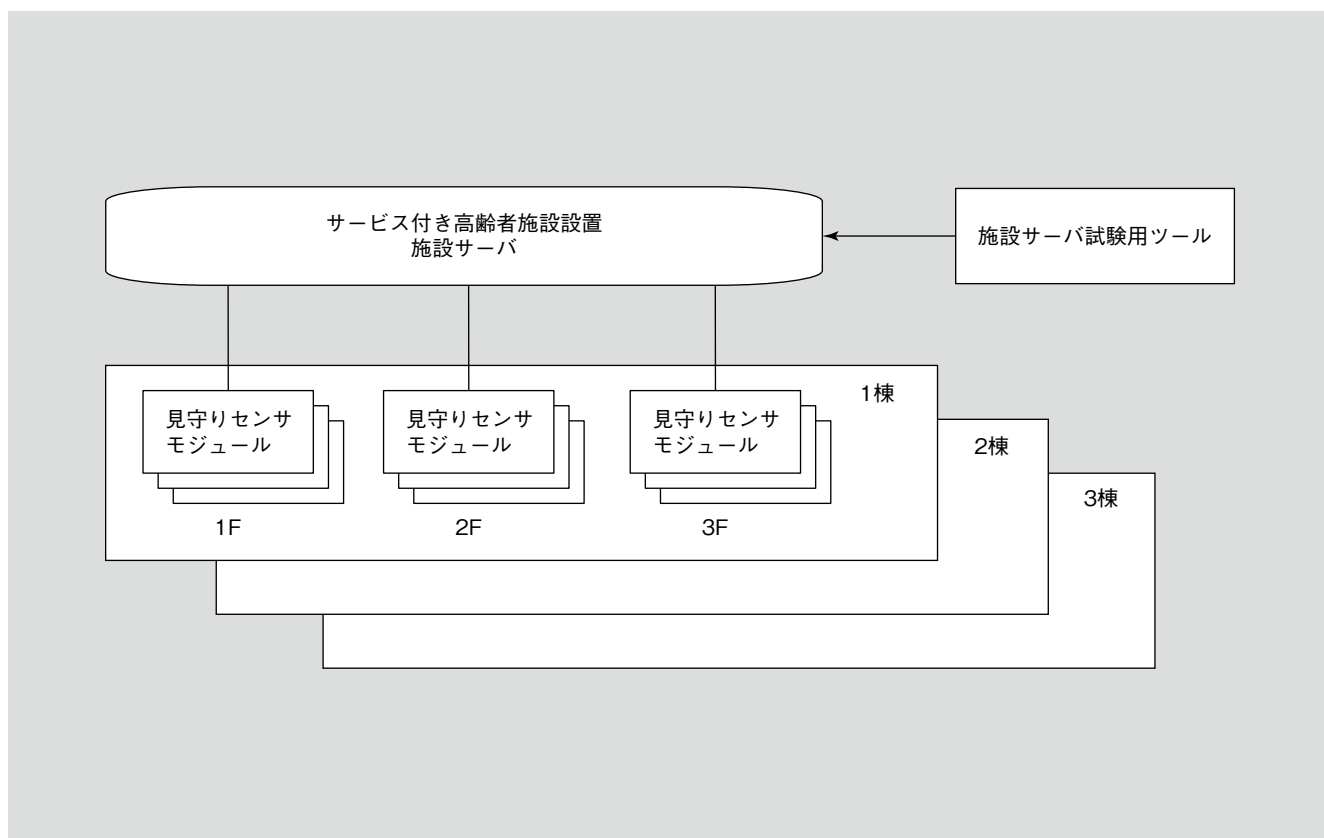
昨今、少子・高齢化が進む影響で介護人員の不足が深刻な問題になっている。そのため、三菱電機㈱ビジネスイノベーション統括事業部が主体になって見守りサービスの事業化を検討している。三菱電機エンジニアリングもこの事業の立ち上げに参画し、サービス付き高齢者施設向け見守りセンサモジュールの試作機を開発することになった。

今回開発した試作機では、施設スタッフが各部屋の見回りをせずに居住者の動きや居室内の環境を遠隔から把握できるようにするために、Wi-Fi^(注1)通信経由で各種センサ類のデータを施設サーバへ伝送する必要がある。

実証試験の機能拡張やソフトウェア変更の取り回しが容易であることから市販のシングルボードコンピュータを用いることや、部品メーカーの3D設計データを活用することによって、開発の効率化を図りながら、実証試験用の試作機を開発した。

現在、三菱電機㈱が進めている実証試験で今後必要になるデータの収集を行って、高齢者向けビジネスの拡大を目指して新たな技術確立と製品化を図り、当社も三菱電機㈱のグループ会社として事業開拓に貢献する。

(注1) Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標である。



サービス付き高齢者施設向け見守りサービスシステムの構成

今回の実証試験では、サービス付き高齢者施設の各部屋に見守りセンサモジュールを設置する。見守りセンサモジュールから収集したセンサ類のデータを施設内のサーバへ送信し、試験用のツールを用いて各種データの確認を行う。収集したデータを解析し、見守りサービスシステムの構築を行う。